

大名美恵子です

東海村村松 2401-2 電話・FAX 284-0761

E-mail toukai@oona-mieko.info

「よい子」を振る舞うモンスター小学生が急増しているワケ

フリーライター 岡田光雄 2020/10/18

※前号の続きです。岡田光雄氏が白梅学園大学増田修治教授に聞き取りした内容のご紹介です。

2つ目に紹介するのは、首都圏にある小学校の特別支援学級（支援が必要なハンディがある児童がいるクラス）のケースだ。

「その学校の通常学級に通う児童が、特別支援学級のハンディのある児童に対し、いじめを日常的に行っており、『お前、なんで生きてんの?』『死ねよ』など信じられないような罵詈（ばり）雑言を浴びせていました。このケースの場合もいじめを裏で主導していたのは、いわゆる『よい子』タイプの児童。その子はとても頭がよくて、決して自分は実行犯にならず、授業中に騒ぎそうな子をたきつけては学級崩壊するように働きかけたりもしていました。

私が『なんでそういうことをするの?』と尋ねてみると、児童は『塾で勉強しているから授業を聞く必要がないし、学校の授業を壊しちゃえばみんなが勉強できなくなって（相対的に）自分の評価が上がるから』と応えました」。



ランドセルの無償化を求めて、今議会も取り上げました

小学校の入学式の日、新1年生は、「憲法第26条に掲げる義務教育無償」に基づき、文部科学省がその精神を広く実現するためとして、学校から教科書を受け取ります。

多くの子がランドセルに入れて持ち帰ります。現在においては、小学生が教材の移動に使用しているのはランドセルがほとんどです。

義務教育を受けるのに、ランドセルは必需品になっています。無償化を広く実現するために、ランドセルも教科書と同じく捉えるのが本来ではないでしょうか。

「義務教育の無償化」を真に実現するためには、まだまだたくさんの課題がありますが、入学の日、差別感をもつことなく希望に満ちて（もちろん不安もあるでしょうけど）過ごせるように、そして誰もが同じスタートラインに立ったと感ずることができるよう、当面、村がランドセルをプレゼントすることが必要になっていると考えます。

前近代的な学校スタンダード 抑圧に耐える児童と教員

もっとも、「よい子」を振る舞っている児童全員が、前出のケースのような“裏で糸を引く主犯格”タイプというわけではない。ほとんどの児童は別な傾向があるようだ。

『『よい子』を振る舞う児童は、わからないことを素直に『わからない』と言えないという特徴があります。

なぜなら、もしそんなことを口にしたら、前述したようなリーダー格の児童から『なんだお前、そんなこともわからないのか』とばかにされ、学級内でのヒエラルキーが落ちてしまうからです。

また、授業中に先生が児童に『これについて君はどう思う?』と尋ねても、ほとんど誰も返事をしてくれないケースもあります。その理由は、万が一変な回答を言ってしまうとばかにされたくないということと、仮に正解を言ってしまうと今度は『調子に乗るな』とやっかまれてしまう。児童たちの多くは、自分の発言が周りにどう受け止められるか常に思慮をめぐらしているようです。（次号に続きます。次で終わります）

❖ 一般質問は、9日・10日・11日です。大名は、11日の2番目、午前中になる予定です。

❖ 「公立幼稚園の統廃合計画に関する住民請願」（紹介議員：大名美恵子）が提出されました。

文教厚生委員会で審査が始まりますが、初回審査の委員会は、12月11日（金）15時30分からとなっています。この日は、請願者の陳述があります。